

志願兵派遣地獄(ぼらんていあ ばそなの ごりん)

組織委員会[報告書(2022.6月)]p.280-289 大会スタッフとボランティア

[TOKYO2020 振り返り(2021.12月)]第21章.ボランティア・スタッフ、外部組織の協力(p.465-495)

[東京都報告書(2022.3月)]p.65-72 [ボランティア/シティキャスト活動記録(2022.3月・写真集)]

「オリンピック後に、日本にボランティア文化が根付くことがレガシーとなるように」と、今後ともやりがい搾取する気満々で打ち出されたオリパラ・ボランティア(以下ボラ)。当然、報告書にはボラすばらしいとしか書いていないのは予想通りである。

では、報告書に書かれていないことは何か。ほとんどなにも書かれておらず、実際の活動よりも募集や準備のプロセスの方にページを割いている。結果、ボラの実態が曖昧で、その上でさまざまな事件・事故・搾取が起きたことがまったく書かれていない。これでは今後もボラ地獄がレガシーになってしまう。

1.ボラはどこから来たのか。

当初予定：11万人

(組織委の「フィールドキャスト(以下FC)」8万人、自治体の「シティキャスト(以下CC)」3万人)

応募：FC：204680人 CC:36649人

実働：FC:70970万人(1万人辞退)、CC:15698人。

ボラ募集は18年9月～12月だが、事前にNHKの世論調査が「ボラしたい15%、したくない84%」という数字が出たとおり、集まりは悪かった。その後もボラの待遇のひどさが判明するにつれ、ますます集まらなくなっていった。そして19年に上記人数が「応募した」とされたものの、その後もコロナ不安で辞め、森発言で辞め、延期で大量に辞めていった(報告書では20年7～9月に延期にともなう参加意思確認アンケートを実施、9割が回答し、うち8割が「活動できる」で「辞退はごく僅か」だったとしている)。

- ・2002年4月1日以前に生まれた方(←20歳以上。しかし実働に10代2112人。90代3人)
- ・組織委が指定するすべての研修に参加可能(←ここで「ブラック」の声があがった)
- ・日本国籍もしくは日本に滞在する在留資格
- ・大会の成功に向けて情熱を持って最後まで役割を全うできる(←「辞めるな」ってこと)
- ・お互いを思いやる心を持ちチームとして活動したい

(積極的に応募していただきたい方)(←本音は技能のある人材をタダで使いたい。若い人がほしい)

- ・ボラとして活躍したいという熱意を持っている
- ・オリパラ競技に関する基本的な知識がある
- ・スポーツボラ経験をはじめとするボラ経験がある
- ・英語やその他言語のスキルを活かしたい

いわゆる「ブラックボラ」が発覚した募集要項は、掲載されておらず「最低年齢以外は条件を定めないこととした(報告書 p.284)」。

また、ボラは無償！かたくなに無償！というのが日本スタイルであるが、この条件で無償かよ？という世論から「交通費1000円」になったといわれる(実際はクオカード?)。宿泊は自己負担及び自己手配(報告書 p.283)。最初は世界からの観客が来るため、ボラはどこに泊まるのだ、とも言われていたのだ。

こんな条件で奇特にも自発的に応募してくる個人を待っているだけでは限界がある(し、個別に対応するのは受け入れ側も面倒だ)ため、企業や大学から集めることは当初から想定されていた。

・14年に組織委と800大学が連携協定を結び、亜細亜、順天堂、早稲田、外大連合はボラ講座を開設、筑波、神田外大、東海は有料講座で「資格」を発行している。208大学で説明会を行い2660名(学生2040名、教職員620名)を確保している。18年には「中高生枠」も作られた。

「2002年4月以降生まれ」はどうしたのか？

東京都報告書には「あわせて大学や企業等の協力を得て、都職員による訪問説明会も開催した」とある(p.67)。また「希望者には、親子でボラ活動を体験する取組を行い、231組の親子が参加した。※子供は小学生を対象に実施」とある。会場は東京スポーツスクエア(有楽町)で「来場者案内、大会情報の提供、公開収録」の会場である。

・企業ボラは「ボランティア休暇を取りやすくしていく」ことがレガシーになるとか言っていたが、実際スポンサー企業からの「動員」はあったようで、会期中NTTやLIXILなどの企業名の入ったパスを下げたボラ服の人間をよく見かけた(←スポンサーが自社の事業にボラで行くのはボラと言えるのか。それは「仕事」では。日本の企業文化)(←企業によっては有給で動員していたわけで「実はお金をもらってボラに参加」である。後述の派遣も含め「同じボラなのに有償と無償がいる」ことになる)。

・17年に薬剤師(アンチドーピング認定資格者・スポーツファーマシスト)を無給で募集し、大会直前には医師・看護師を大量にボラで募集し、問題になっていたが、それも書かれていない。結局「人数は確保できた」としていたが、彼らは無給だったのか。

2.ボラはほんとうに足りていたのか。

[振り返り]では一切触れられていなかったが、[報告書]には突然「大会スタッフ(p.280)」の項目が立てられ「委託事業者の活躍」なるワードが登場している。

東京2020大会の運営に関わる大会スタッフとして、組織委員会職員(約7000名)、組織委員会が募集する大会ボランティア(約7万名)、組織委員会の各FAが契約する委託事業者の従業員等、総計約28万名が大会運営に従事した。

「会場警備、飲食提供、清掃、輸送、ロジスティックス等」とされる20万人が「委託事業者」だったわけだが、その詳細は書かれていない。電通社員の「ディレクター」から、「委託事業者が予定どおりのスケジュールで必要な人員を採用」した、つまりバイト・派遣まで。

毎日新聞が人件費をスクープし、ディレクター等は日給30万円で、一般のスタッフは27000円。しかしこれは「ひとりあたり経費」としてパソナや東急エージェンシーに支払われたものだ。そこからシミズオクトや、その他スポーツ専門ではない派遣会社への孫請けで募集された。

登録型派遣各社には大量の「国際的スポーツイベントのお仕事」が発生していたことは、派遣労働者宛のメールや派遣会社のサイトで明らかである。勤務地などもぼかして書くのが登録型派遣では通例だが、明らかに国立競技場、味スタ、選手村、ビッグサイトとわかる。その業務内容がボラとかぶっていることから、「ボラの不足をバイト・派遣で補っているのでは」と推測されたが、組織委は内訳を公表していない。

ボラのおしごとは

案内、競技サポート、移動サポート(運転等)、アテンド(要人・選手団・メディア)、運営サポート

(会場←朝顔水やり・選手村・車両運行、ユニフォーム配布、ID発行、受付)、ヘルスケア(ドーピング検査員のサポート)、テクノロジー(通信機器貸し出し・回収、競技結果の入力)、メディア、式典

派遣の募集は、観客誘導など無観客でキャンセルになったものもあるが、直前・会期中も募集は続いた。スタッフ・ボラへのユニフォーム配布、競技場内での調理補助・配膳、買い物のサポート(パシリ)、車両誘導、選手村での車椅子等の乗車補助(これは「報告書」でボラの業務として写真が載っている)など。だいたい1200円/時前後×8時間=日給9600円(経費は27000円だが、派遣のピンハネとしては一般的なレベルではないか)。研修があり、勤務期間が指定されているケースもあれば、「期間中1日から可」の募集もあった。ボラとは賃金の有無だけでなく、日数指定のあるなしでも差があったのだ。同じ職場で待遇が違う人がいると気まずい。雇用側は「有償なことは隠せ」と言う。それ自体がハラスメント。

もちろん「情熱」だの「思いやる心」だのを持参せよとは書かれていなかったが、その代わりに「アシックスかノーブランドのスニーカー着用」が指定されていた。

3. そんな曖昧な存在の[ボラ]に何かあったときは。

- ・最大の事件は首都高で関係者送迎中に腹部静脈瘤破裂の発作を起こした運転ボラが、暴走して当て逃げをした件(21/8/1)だろう。他人を送迎する運転を無資格者にさせていた上、ボラは体調悪化しても「時間に遅れないように」運転を続け、あげくに失神して暴走状態に。

- ・会期中に国立競技場で性暴行事件が起きた。加害者はアフリカ系の外国人で、女性は学生。二人とも「アルバイト」という表記だったが(ボラでなく、バイトがいた、ということの証拠)、「派遣」ではないだろうか(アルバイトというと一般的に直接採用で使われる呼び方)。二人で競技場内を散策していた折の事件だが、お得意の監視カメラは何をしていたのか。

- ・武蔵野市競技場の「聖火イベント・バクチク事件」。公判で「警備員」が証人として出てきたら、イベント会社の社長だった。その会社、スパイダーは業務委託で会場の誘導・受付をしていたが、「社員は私だけ」と証言で判明。指示するスタッフも社員ではなく、さらに「アルバイト」を使っていたという(これも「派遣」ではないかと思う)。バクチクに対応(誘導・受付の仕事ではない)したのが「社長」だからまだよかったものの、派遣でそんな仕事までして、裁判に呼ばれたらどうだろう。責任も取れないし。

- ・会期中、有明の競技会場に抗議に行ったとき、ボラ服の目つきの鋭い男が、体操競技場のフェンスの中からじーっと見ていて、そこから別会場の有明アリーナまでくっついてきた。警備会社社員か。はっきり警備とわかる制服もあったのだが。微妙な違いがあるのかもしれないけど、ボラ服を着てボラじゃない人もいたように思う。

- ・服については不評だった「家から着てこい」についても記載なし。競技会場近くの駅トイレで大勢が着替えていた。

- ・筆者は個人的には弁当廃棄問題の会見(21/7/31)で大学生ボラが乱入し「棄てるなら僕らにください。菓子パンしか配られずとても足りない」と言った話が好きなのだが、当然記載なし。

- ・[報告書]別項「清掃と廃棄物(p,207)」にも、この弁当廃棄、医療品廃棄の問題は書かれていない。また選手村や会場での食事も大量廃棄が生じていたことを「時給1500円」のバイトが告発し、ネットでは「時給1500円ももらっているのか」と、なぜかあさっての方向で叩かれていた。

[報告書/大会期間中の対応(p.268)][振り返り/大会中に生じた課題と対応(p.477-478)]には、上記のことは一切書かれず、「大部分はマナーを守り熱意溢れる活動ぶり」として、せいぜい問題は

- ・無観客で配置、活動日数が減った。
- ・ボラのマナー違反に関係者から苦情。
- ・選手写真の SNS 掲載など(←16 年から組織委がネットを「炎上防止で」監視：17/11/14 毎日新聞)。

- ・座席での試合観戦、シフトが入っていない日の来場。
- ・食堂で会話する。対策：「黙食」と貼紙しといたよ。

[振り返り]は、ほぼ「思い出アルバム」的な代物なのだが、「課題と対応」項目、「個々の職員の献身的ながんばり」と「皆さんと出会え、オリンピックに関わり、貴重な体験ができ、私は幸せだと思います！」の感動メッセージで締めている。

4. ワクチンと暑さ対策とかぶる傘。

[報告書(p.44)]では、(批判された)「オリパラ関係者優先で提供されたワクチン」を 4 万人が接種したとある。21 年 7 月は 65 歳以下の接種はまだ進んでいなかったのだから、オリパラ枠以外で接種した関係者を推定しても、接種率は相当低い。[振り返り]では「全ての大会ボラ・職員に接種機会を提供」とあるが。東京都報告書にはワクチン接種のスケジュールが書かれているが、開始は 6 月なので会期中には 2 回目+2 週間の抗体獲得にいたっていない。筆者が 7 月下旬に CC の人と話したら「明日 2 回目、代々木公園で」と言っていた。

暑さ対策は、主に根性論。

- ・日頃からの体調管理
- ・暑さに慣れる
- ・暑さ対策グッズを無観客で余ったのでこまめに配布し有効活用(←棄ててるかもしれない)

忘れてはならないのが小池百合子自慢の「かぶる傘」である。筆者は一度だけ目撃し、報道でも「誰がかぶっているのか」「希望者はどうぞ、と積んであるらしい」とあったが、なんと東京都の思い出アルバム[シティキャスト活動記録]では、多くのボラが銀の傘をかぶってキラキラ輝く笑顔を見せているではないか！

5.[組織委員会報告書 p.282/大会スタッフコンセプト]

私は輝く。

楽しむ、変わる、世界を変える。

一生に一度の東京 2020 大会。だからこそ、この機会を心から楽しむ。

人と出会う楽しみ、人を笑顔にする楽しみ。やり遂げる楽しみ。

人にはそれぞれの楽しみ方がある。その楽しみの先には、一歩踏み出した自分がある。

一歩踏み出した自分は、自信に溢れ、輝きを放つ。自ら楽しむ人は輝いている。

一人ひとりの輝きが集まり、やがて大きな輝きとなる。

そしてそれは世界と未来を変える力となる。

新しい世界と未来を私たちが作り出す。そのために、いま、私は輝く。

参考文献：『ブラックボランテニア』本間龍 2018 角川新書

担当：イケガミアツコ